

## 教師海外研修

## 参加した先生からのコメント

自分にとって「学ぶ」ことの価値を改めて感じた。この経験を踏まえて、子ども達に伝えたいことは、「相手の目線に立つこと（相手の自己ルールがあること）」、「わかる」だけで終わらず「やってみる」こと「学び続けること」。そして、何のために学ぶのかを考えてほしい。共に学ぶ、共に考えるという視点を生運持ち続けてほしいと思う。同じ時代に同じ地球に生きている仲間という視点で、よりよい地球にするために、いろいろな分野で学び、考え、貢献してほしいと思う。

白山市立松任中学校 国語科/3年 藤田 実代子 先生

自分と相手は、同じ人間ではない。顔も違うし、体も違う、声も、考え方も、なにもかも違う。それなのに、自分と一緒にいたい。自分の意見が受け止められなかったら相手を卑下する。外国の人だから理解を進めていかなければいけないのではなく、違う人だから理解をする。そして、善意の押し売りすることなく、相手と話をし最善の解決策を見つける。以上のことを、子どもたちに伝えたいと思う。

金沢市立小坂小学校/5年 小山 昂志 先生

## 第1回・第2回 グローバル Global campus キャンパス



三本松訓練所で!



第一回 勉強会の様子

第二回 語学クラス体験

JICA北陸では、北陸3県に在住の大学生を対象に、国際理解・国際協力体験型プログラムを毎年開催しています。(全5回のプログラム)  
第一回知識編では、国際協力に関する知識を学びました。(8/1開催)「知らなかったことが多かった」、「ディスカッションを通して違う意見を聞き視野が広がった」との感想が多くありました。  
第二回体験編では、1泊2日で福島県二本松市にある青年海外協力隊訓練所に体験入隊しました!(8/29・8/30開催) 語学訓練や普段の生活と一緒に体験し、これから途上国へ飛び立つ訓練生から沢山の意気込みを聞くことが出来ました。  
訓練生の生の声を聴いて、全員「私も頑張ろう!」という強いモチベーションを得ることが出来ました。これから残り3回、JICA研修員との交流などを通し、さらに国際理解・国際協力を深めていきます!

## 国際力アップ!



### 国際協力出前講座 授業力UPセミナー in富山

国際協力出前講座とは、開発途上国の実情や日本との関係を知り、国際協力がなぜ必要なのかを考える授業や研修などの機会に元JICA海外協力隊やJICA関係者を講師として派遣するプログラムです。  
今回は、元JICA海外協力隊を対象に、体験談が分かりやすく、伝わりやすい表現方法や、関心や理解度が深まるスライド作り、他の経験者がどのような工夫をおこなっているか、経験者同士で情報共有をしていただくセミナーを富山県にて実施しました。参加者同士アドバイスをし合うことにより、自分では考えつかなかったアイデアが出てきて、次の出前講座で実践してみよう!と、盛り上がっていました。今後もブラッシュアップ、情報共有の機会を設けて、より質の高い出前講座を目指していききたいと思います。



グループワークの様子



授業授業の様子

### セネガルへGO! みんなでクッキング体験 in 福井市地域交流プラザ



調理の様子



チェブ・ジェン

日本全体が盛り上がったサッカー W杯!日本は6月24日、テランガ(おもてなし)の国セネガルと対戦しました。その当日、試合をより楽しんでいただこうと、セネガル文化紹介を行いました。元青年海外協力隊員による、セネガルでの活動体験パネルトークや、現地のサッカー映像と注目選手の紹介など、対戦相手国の魅力をたっぷりご紹介!  
また、セネガル国民が愛する「チェブ・ジェン」作り体験も行いました。揚げ魚と野菜をじっくり煮込んだ炊き込みご飯のようなこの料理は、日本人になじみやすい味です。小さいお子さまから大人の方まで楽しく参加いただきました。ジュルジュフ(ありがとうございました)!!

## 梨杏里が サモアに行くって Really? 01 帰国直前編



青年海外協力隊員 田畑 梨杏里さん  
Riari Tabata

石川県・七尾市出身。職種は障がい児・者支援で、派遣国はサモア。高校生の頃から海外に住んでみたいという夢を持ち、青年海外協力隊に参加。



ダイエットプログラム

支援学校の保健に関するパートナーシップ会議

### Q1 ボランティア活動、生活を振り返ってみてどうでしたか。

活動ではサモアの人といるなことにチャレンジしました。同僚にも、他組織の方にもたくさん協力してもらって充実した2年間でした。同僚とは度々言い合っていて、こんなに激しい自分にびっくりもしました。そんな時期にも安定して支えてくれたのはサモアの家族で、そこに居るだけで癒されました。



「世界の笑顔のために」プロジェクトで寄贈してもらった鍵盤ハーモニカ



家族との写真

### Q2 帰国後、ボランティア経験をどう活かしたいですか。

長年離れている地元に戻って家族のために、近所の人のために、地域のためにできることを考えながら生活し、必要があればサモアの経験を思い出してどんどんチャレンジしていきたいです。いつかサモア家族を地元へ招待したいなあとも思っています。

## 青年海外協力隊員 現地からの声

from カメルーン



2017.10.22に行われたサッカー「B [カターレ富山vsブルージャズ岡崎]にて、カターレ富山の選手の皆さんが使っていた練習着の贈呈がありました!

「カターレ富山」からお揃いの練習着が届きました!



南 祐太朗さん【富山県出身】  
派遣国：カメルーン  
職種：コミュニティ開発



民族、気候、地形の多様性から、「ミニ・アフリカ」と呼ばれるカメルーン。植民地化の歴史から、英・仏語が公用語の珍しい国ですが、村では民族語が主流です。主食は、マニョックと呼ばれる芋類、トウモロコシ、食用バナナ、米とバリエーション豊かで、付け合わせのピーナッツソース等、日本人の舌にも合います。私の活動する村は、自給自足の農家が大半で、現金収入は余剰作物で得るわずかな額です。収入を増やすため、ウサギの繁殖やキノコ栽培のプロジェクトを進めるほか、停電対策でソーラーランプを普及する取り組みも行っています。2月には、サッカーチーム「カターレ富山」から練習着が届き、揃いの体操着がなかった子供たちは大喜びでした。



栽培したキノコです!